

あらゆる困難のいんえジェット増送阻止へ



動労千葉

79.10.12
No. 246

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
〔鉄電〕二五八、九・(公衆)〇三三、二七二〇七

10・21闘争の最高揚がちくんとん。

われわれは、いま、国鉄当局の不当きわまりない三里塚ジェット燃料増送計画を阻止するたたかいにたちあがっている。

●この渦中であって、「10・10」の事態が発生した。すなわち、十月十日二十二時四十五分頃、成田線滑河―久住間(一〇五七―一〇五八)において、ジェット燃料輸送列車が襲撃され、という事態が発生したのだ。

●動労千葉は、事態発生第一報を受け、直ちに吉岡、林執行委員と吉野青年部長を現地に派遣し、成田支部役員とともに当該乗務員の安全確保と権力の介入・弾圧を阻止する闘いに決起し、十一日早朝より成田支部において現協、つづいて千葉局において団体交渉を開催し、当局を追及した。

●ジェット燃料増送攻撃は、強権的に暫定開港された三里塚空港の機能をさらに増大させ、二期工事強行着工の準備をしようとするものにほかならない。従って、これに反対することはすべての人民の当然の権利である。国鉄当局は、これをわれわれ国鉄労働者に強要せんとしているのだ。

●それ故、三里塚闘争を闘うなかで、とりわけ、ジェット増送をたたかってきた動労千葉は、この燃料増送をみとめるわけにはいかならぬ。

●われわれの闘いが、動労本部革マル反動集団の組織破壊攻撃と、権力・当局の弾圧によって幾多の妨害をうけ、その闘いの困難さ、歯をくいしばりながらも、われわれは、いま、一歩として一歩と力を強めつつある。

●こうしたなかであって、三里塚をたたかい、ジェット燃料輸送に反対する人々が、われわれ

に呼応してともにたたかうことは当然である。

●この場合、いうまでもなく、ジェット燃料輸送阻止のたたかいは、ハンドルを握る国鉄労働者がストライキをもってたたかうことこそ、もっとも有効なたたかいであり、基本である。この鉄路のたたかいかたたく結合して、ジェット燃料輸送阻止闘争を真に勝利に導くことができると考える。「10・10」の事態は、こうした点から、明々白々の誤りであることをきびしく指摘しなければならぬ。しかも、われわれが連日の動労本部革マル反動集団の組織破壊、三里塚ジェット闘争の敵対策動と総力をあげてたたかひぬき、10・22ジェット増送阻止第一波ストライキの体制構築に全力をかたむけているまさにこのときに発生した「10・10」の事態が、その意図のいかんを問わず許しがたい敵対行為でなくてなんであるか。われわれはストライキ支援防衛の連帯行動こそそのぞむものである。

●さらに、今回の事態発生に鑑み、一切の根源が国鉄当局によるジェット燃料の輸送強行にあることを強く指摘しなければならない。動労本部革マル反動集団の如く正義の三里塚闘争を権力の謀略よばわりすることは、農民に対する許しがたい敵対であり、ジェット闘争に対する敵対であり、人民の闘う権利をじゅうりんするものである。今回の事態を利用する動労本部革マル反動集団のいかなるスト破壊策動をも粉砕し断呼として10・21国際反戦闘争と連帯した10・22を出発点とするストライキを闘いぬくことを明らかにする。

一九七九年 十月十二日